

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	23-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Characterizing the clinical subgroups of individuals who present to the emergency department for alcohol-related harms in Ontario, Canada: A latent class analysis カナダ・オンタリオ州におけるアルコール関連障害で救急外来を受診した患者の臨床的サブグループの特性評価：潜在クラス分析		
執筆者		
Friesen EL, Mataruga A, Bolton J, Kurdyak P.		
掲載誌		
Psychiatry Res. 2024 Mar;333:115726. doi: 10.1016/j.psychres.2024.115726.		
キーワード		PMID
アルコール使用、救急外来、医療サービス利用、死亡率、再発する障害		38224632
要 旨		
<p>目的：アルコール関連の救急外来（ED）受診は一般的であり、早期死亡を含む有害な臨床結果と関連している。この集団ベースの後ろ向きコホート研究では、アルコール関連の ED 受診を経験した患者より、臨床的に異なるサブグループを同定し、グループ間における有害な転帰リスクの違いを明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法：2017 年から 2018 年の間にアルコール関連でカナダのオンタリオ州にある ED を診した患者 73,658 人を対象とした。ED 受診に関連づけられたアルコール関連診断コード、アルコール関連の外来受診、アルコール関連の ED 受診数、過去 2 年間のアルコール関連の入院数を曝露要因とし、潜在クラス分析（LCA）を実施したところ、5 つの臨床的に異なるサブグループが同定された。また有害な転帰として、(1)ED 受診からの入院、(2)受診 1 年以内にアルコール関連の ED 受診を繰り返す回数、(3)ED 受診から 1 年以内の全死因死亡率とした。LCA によるサブグループと(1)の関連は多変量ロジスティック回帰モデル、(2)との関連は多変量部分分布ハザードに基づく Cox 回帰（Fine & grey）モデル、(3)との関連は多変量 Cox 比例ハザードモデルを使用して評価した。</p> <p>結果：5 つのサブグループは、急性酩酊のための低頻度のサービス利用から、アルコール使用障害（AUD）および関連する併存疾患のための高頻度のサービス利用まで、重症度の勾配を認めた。急性酩酊で来院した患者に比べて、AUD および併存疾患で来院した患者は入院のリスクがはるかに高く（調整オッズ比[aOR]：8.26、95%信頼区間[CI]：7.81-8.75）、受診後の死亡率も高かった（調整ハザード比[aHR]：3.07、95%CI：2.81-3.37）。アルコール関連医療サービス利用頻度の高いサブグループは、再びアルコール関連の ED 受診を経験するリスクが最も高かった（aHR：4.76、95%CI：4.55-4.99）。</p> <p>結論：アルコール関連の ED 受診を経験した患者は一様な集団ではなく、臨床的特徴と有害転帰のリスクが異なるサブグループ集合体であった。再入院率や死亡率を減らすための予防策として、リスクの高いグループから優先順位付するなどの対策が必要と考えられる。</p>		